

6 進路・就職

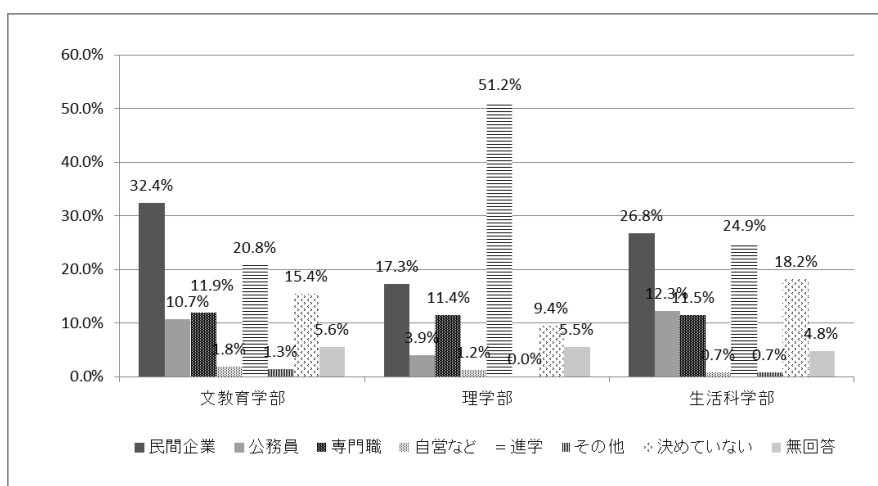
1. 卒業後の進路

お茶大生は卒業後の進路をどのように考えているだろうか。大学入学時の希望と現在の希望の両方について聞いた(図表 6-1、2)。大学入学時、文教育学部の 32.4%が民間企業、10.7%が公務員、11.9%が専門職(教師、医師、弁護士など)、20.8%が進学を希望していたが、現在は 33.8%が民間企業、18.3%が公務員、5.6%が専門職、18.6%が進学を希望しており、公務員希望の割合が高くなっている。

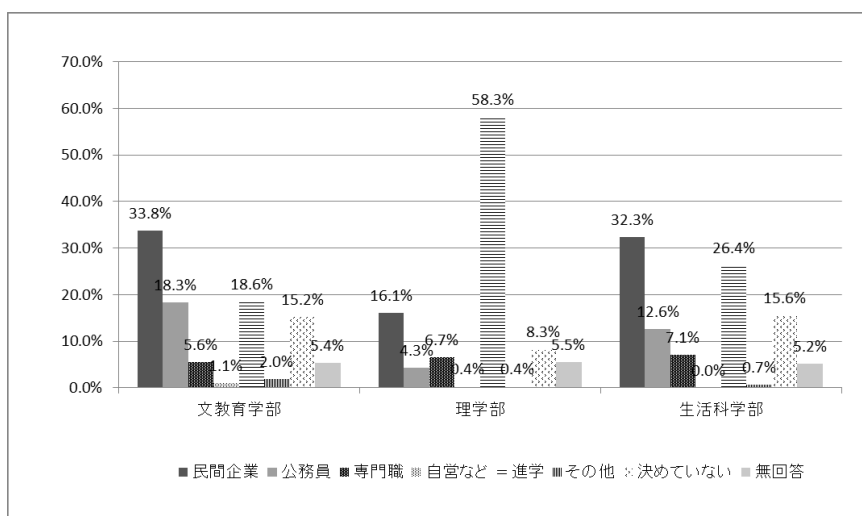
理学部に関しては、大学入学時は 17.3%が民間企業、3.9%が公務員、11.4%が専門職、51.2%が進学を希望していたが、現在は 16.1%が民間企業、4.3%が公務員、6.7%が専門職、58.3%が進学を希望しており、進学希望の割合が高くなっている。

生活科学部については、大学入学時は 26.8%が民間企業、12.3%が公務員、11.5%が専門職、24.9%が進学を希望していたが、現在は 32.3%が民間企業、12.6%が公務員、7.1%が専門職、26.4%が進学を希望しており、民間企業希望の割合が高まっている。

図表 6-1 大学入学時の進路・就職希望(学部別)



図表 6-2 現在の進路・就職希望(学部別)



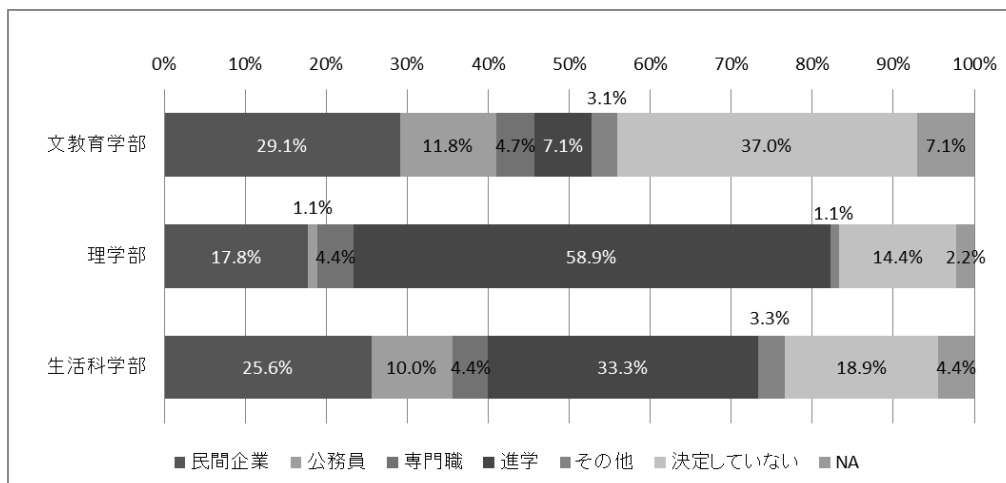
つぎに、調査時に決定している進路を尋ねたところ、4年生では文教育学部の29.1%が民間企業、11.8%が公務員、4.7%が専門職、7.1%が進学が決定しているが、一方、38.0%の学生の進路が決定していないという結果であった。

理学部では17.8%が民間企業、1.1%のみが公務員、4.4%が専門職、58.9%が進学を決定していた。その一方、14.4%の進路が決定していなかった。

生活科学部では25.6%が民間企業、10.0%が公務員、4.4%が専門職、33.3%が進学を決定、18.9%が進路を決定していなかった。

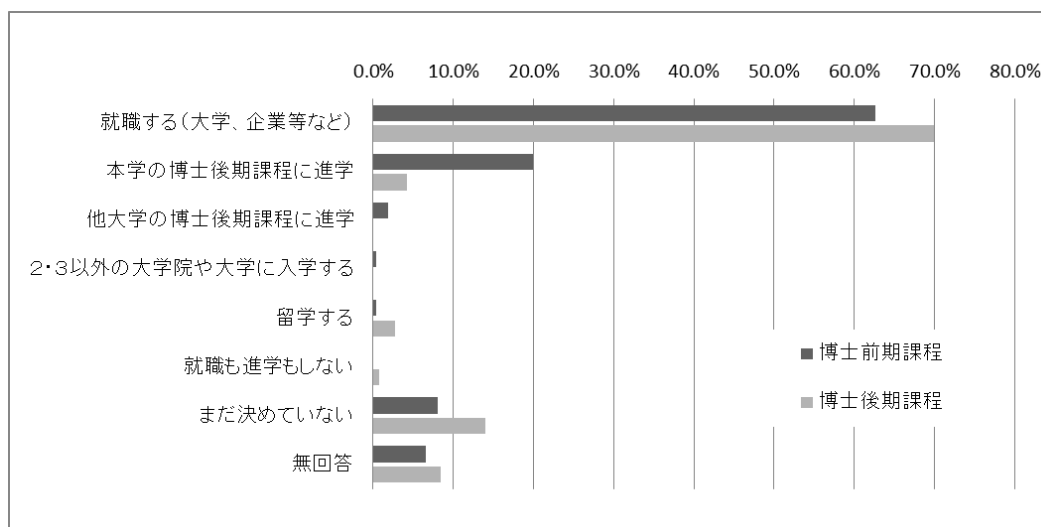
このように、お茶の水女子大学ではとくに理学部、続いて生活科学部の進学率が高い。

図表 6-3 現在決定している進路(4年生のみ)



大学院生に希望している進路を尋ねたところ、博士前期課程の学生の65%が就職を希望、20%がお茶の水女子大学の博士後期課程への進学を希望していた。博士後期課程の学生については、70%が大学、企業等に就職を希望していたが、一方、まだ決めていないと回答する者も14%いた。

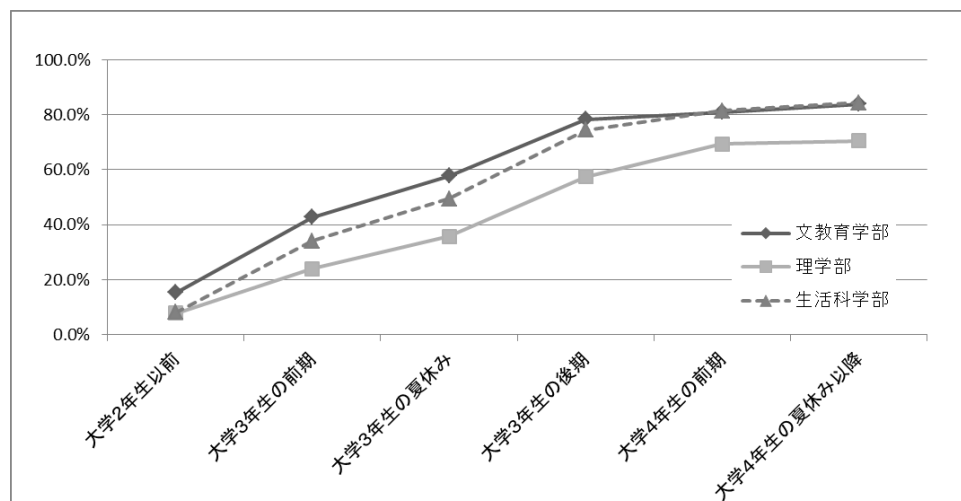
図表 6-4 希望している進路(大学院)



2. 就職活動

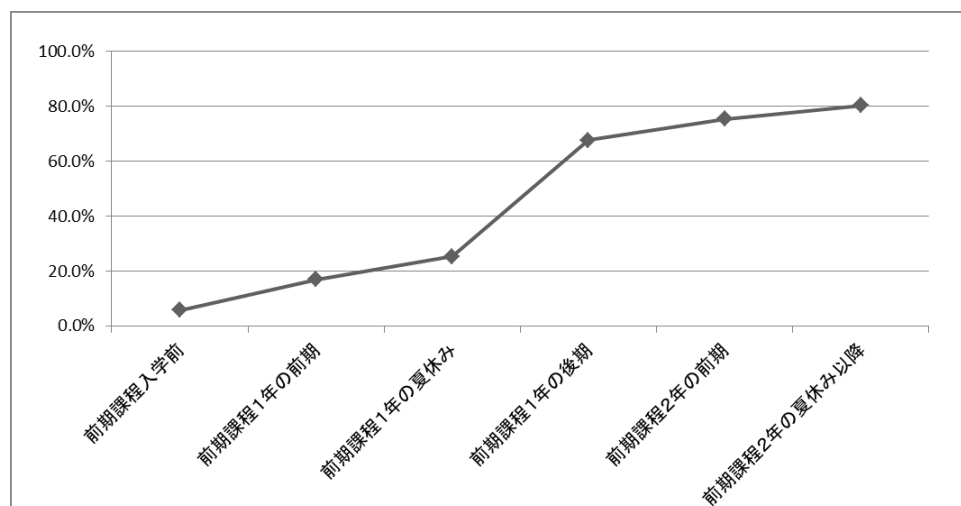
図表 6-5 は大学卒業後の進路に向けた準備・活動を始める予定時期あるいは始めた時期の累積パーセントを示したものである。就職活動の開始時期は文教育学部の学生が相対的に早く、大学 4 年生の前期に生活科学部が割合として追いつく形である。理学部については、学部段階では就職活動をしないうもりであると回答した者が 9.8%と高いため、就職活動をしている比率が他学部比べて低くなっている。その他、「わからない」と回答している者が全体平均で 8.7%いた。

図表 6-5 大学卒業後の進路に向けた準備・活動を始める予定(始めた)時期(累積パーセント)



博士前期課程の学生は学部生よりも若干、就職活動を始める時期が遅く、修了 1 年半前（前期課程 1 年の夏休み）には 2 割程度のみが活動を開始する。しかし、前期課程 1 年の後期には 7 割が活動をおこなっており、学部生の動向と同じになるようである。

図表 6-6 博士前期課程修了後の進路に向けた準備・活動を始める予定(始めた)時期(累積パーセント)



3. 進路相談の相手

進路相談の相手については、いずれの学部、博士前期課程で親・保証人に相談する割合が高い。このほか、文教育学部、生活科学部、博士前期課程では友人に相談する割合も高い。博士前期課程においては親・保証人よりも友人に相談する割合の方が高いという結果となった。キャリア支援センターに相談する割合は博士前期課程の学生で15.8%、文教育学部で10.5%と若干高いが、その他では1割未満となった。理学部の学生の29.5%、博士後期課程の学生の25.2%、生活科学部の23.8%は進路相談をしたことがないと回答した。前回調査では学部生の18.1%が教員、37.9%が親、23.0%が先輩、26.5%が同級生に進路相談をし、45.9%が進路相談をしたことがないと回答している。これに比べ、今回はとくに親・保証人と友人に進路相談をしている学生の割合が高く、進路相談をしたことがない学生の割合は低いのが特徴である。

キャリア支援センターなどの大学内に相談できる場を適切に作ると同時に周知を徹底することも検討すべきであろう。

図表 6-7 進路相談の相手(多項選択)

